

岡山県感染症週報 2015年 第20週 (5月11日～5月17日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

◆2015年 第20週 (5/11～5/17) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第18週 2類感染症 結核 4名(40代 女 1名、80代 男 1名・女 2名)
 4類感染症 A型肝炎 1名(40代 男)
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2名(60代 男 1名、80代 女 1名)
 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(幼児 女)
- 第19週 2類感染症 結核 1名(40代 男)
- 第20週 2類感染症 結核 2名(50代 女 1名、80代 男 1名)
 5類感染症 アメーバ赤痢 1名(40代 男)
 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2名(70代 女 1名、90代 女 1名)
 クリプトスポリジウム症 1名(20代 女)

■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で81名(定点あたり1.45→0.96人)の報告があり、前週より減少しました。
 ○感染性胃腸炎は、県全体で337名(定点あたり6.04→6.24人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第21週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました。(5月18日)
 ○鏡野町の小学校1校で、感染性胃腸炎による臨時休業がありました。(5月18日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で81名(定点あたり1.45→0.96人)の報告があり、前週より減少しました。岡山県は、「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。地域別では、備北地域(3.50人)、備中地域(1.00人)、倉敷市(0.94人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、2施設でありました。インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。県内の発生状況など、詳しくは「インフルエンザ週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で337名(定点あたり6.04→6.24人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域(9.00人)、真庭及び美作地域(7.50人)、倉敷市(7.18人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「感染性胃腸炎週報」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少 : 1.1～2倍未満の減少 : 1.1未満の増減
 : 1.1～2倍未満の増加 : 2倍以上の増加

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

インフルエンザ週報 2015 年 第 20 週 (5 月 11 日 ~ 5 月 17 日)

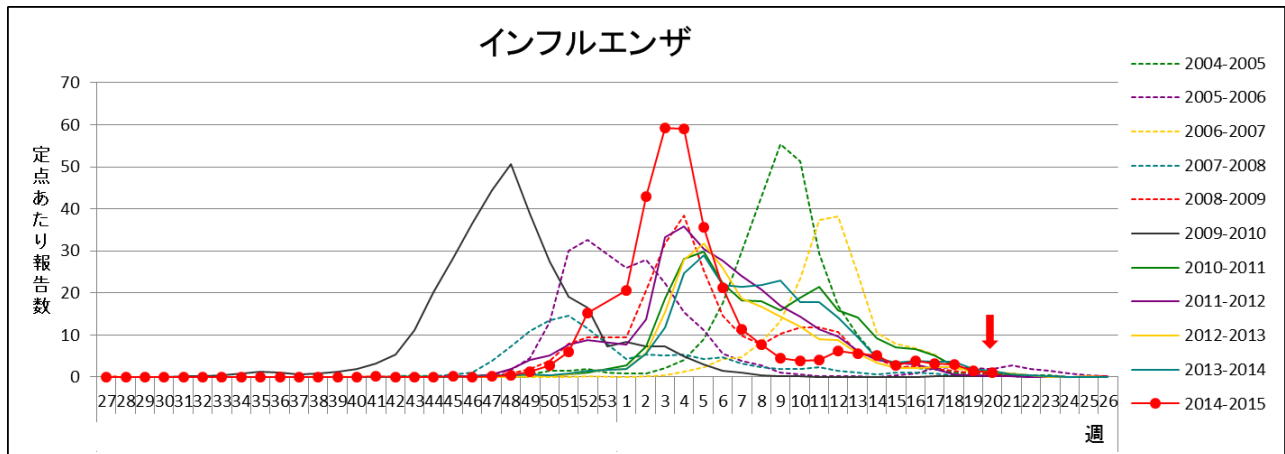
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 81 名（定点あたり 1.45 → 0.96 人）の報告があり、前週より減少しました。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第 21 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、3 施設でありました（5 月 18 日）。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 81 名（定点あたり 1.45 → 0.96 人）の報告があり、第 17 週以降、患者の減少が続いています（84 定点医療機関報告）。地域別では、備北地域（3.50 人）、備中地域（1.00 人）、倉敷市（0.94 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

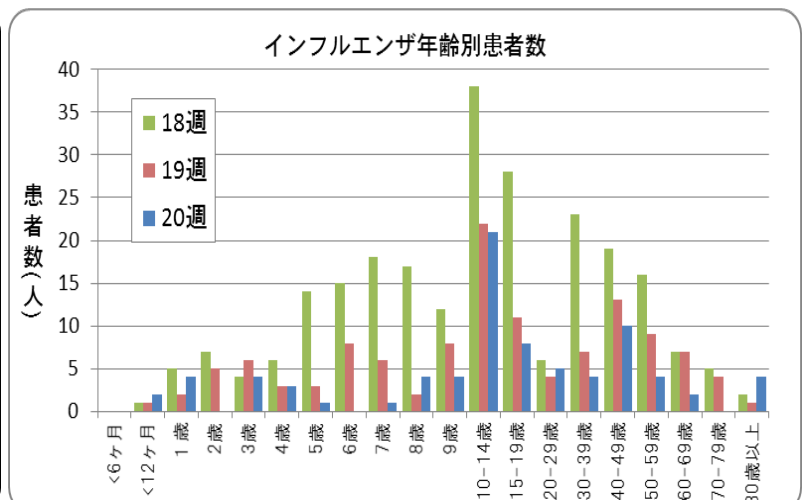
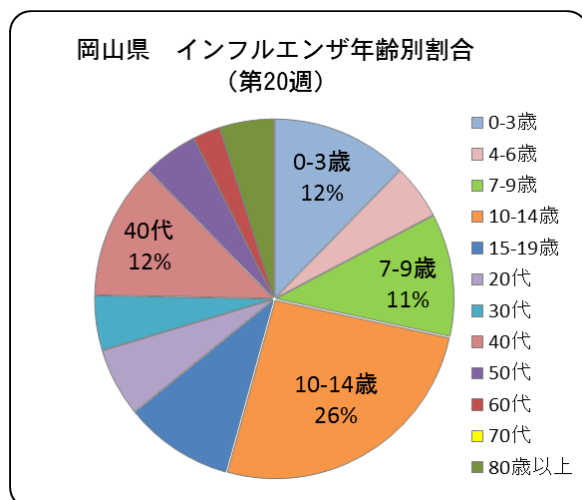
流行は終息に向かっているものの、依然として学校等の臨時休業も報告されており、患者の発生は続いています。岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により、注意喚起を図っています。『外出後や食事の手洗いを徹底する』『咳エチケットを心がける』『十分な睡眠を取る』など、感染予防に努めてください。また、症状のある方は早めに医療機関を受診しましょう。

※注意報の解除基準： 2 週連続して、定点あたり 1 人を下まわった場合

[インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

1. 年齢別発生状況

第 20 週の年齢別割合は、10-14 歳が全体の 26%と最も高く、0-3 歳及び 40-49 歳 12%、7-9 歳 11%の順となっています。



2. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	81	➡	備 中	患者数	12	➡
	定点あたり	0.96			定点あたり	1.00	
岡山市	患者数	18	➡	備 北	患者数	21	➡
	定点あたり	0.82			定点あたり	3.50	
倉敷市	患者数	15	⬇	真 庭	患者数	2	⬇
	定点あたり	0.94			定点あたり	0.67	
備 前	患者数	8	➡	美 作	患者数	5	⬇
	定点あたり	0.53			定点あたり	0.50	

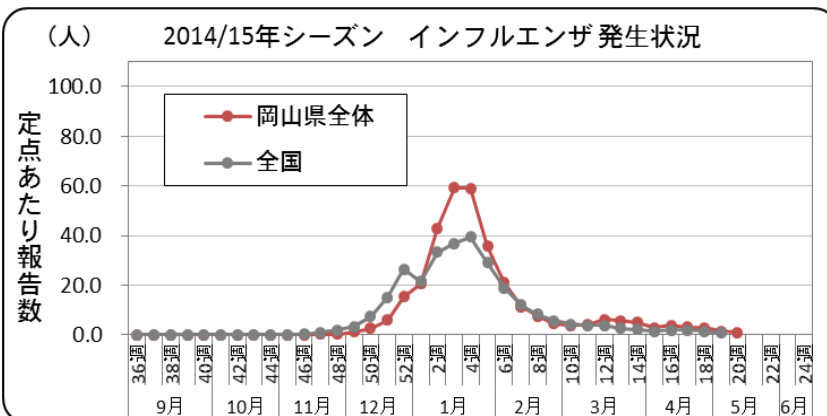
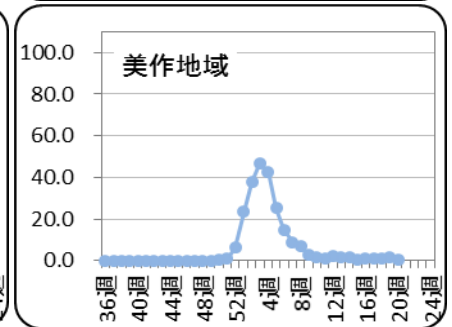
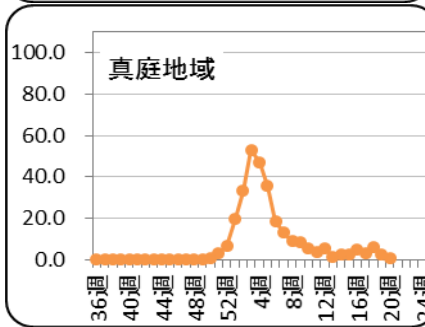
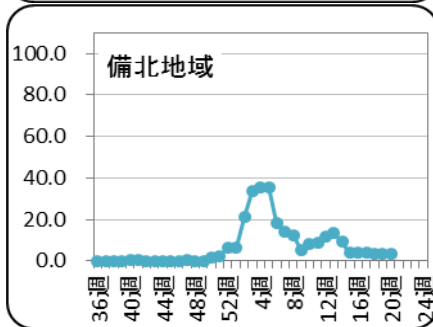
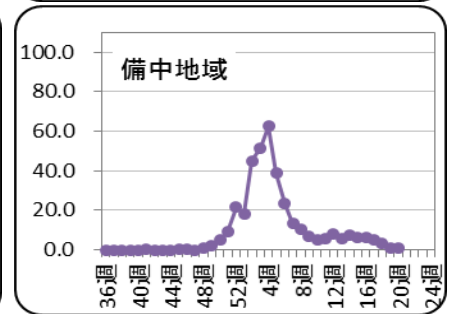
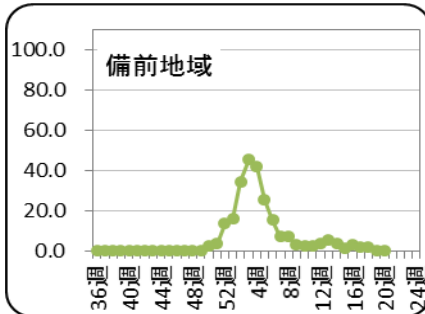
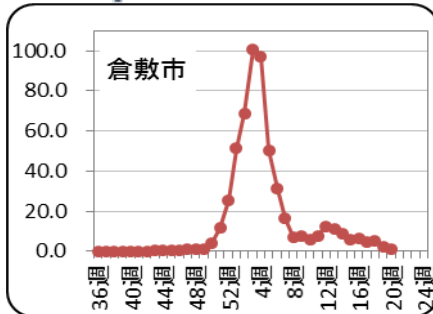
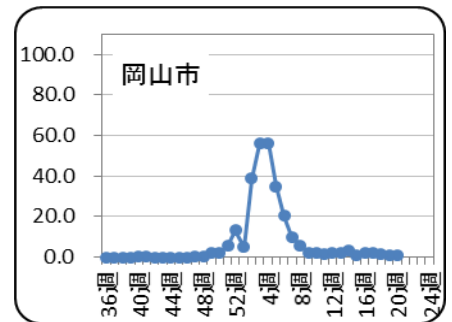
【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ⬇ 1.1～2倍未満の減少 ➡ 1.1未満の増減 ➡
1.1～2倍未満の増加 ➡ 2倍以上の増加 ⬆

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0< 10未満		0



全国の第19週（5/4～5/10）集計によると、全国の定点あたり報告数は0.71人であり、前週（1.43人）より減少しました。都道府県別では、沖縄県（7.60人）、秋田県（2.00人）、福島県（1.92人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、44都道府県で前週よりも減少しました。

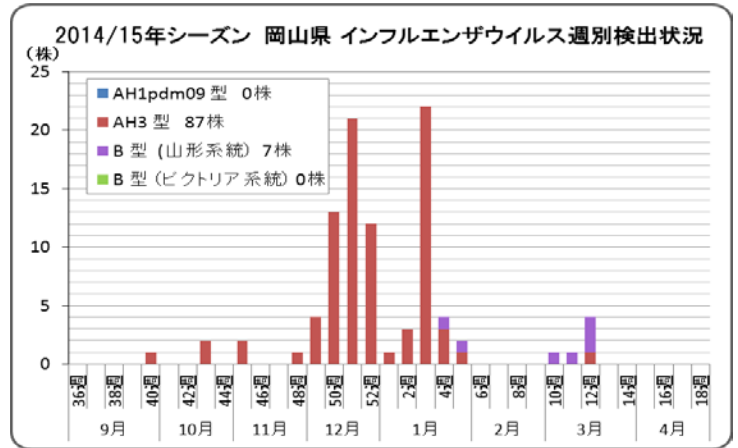
3. インフルエンザウイルス検出状況

第19週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が87株(93%)、B型が7株(7%)となっています。

[岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況](#)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、岡山県と同様、AH3型の検出割合が最も高く87%、次いでB型が12%、AH1pdm09型が1%の順となっています。しかし、最近5週間(第15週～19週)の検出割合は、B型、AH3型の順に高くなっています。(2015年5月21日現在)

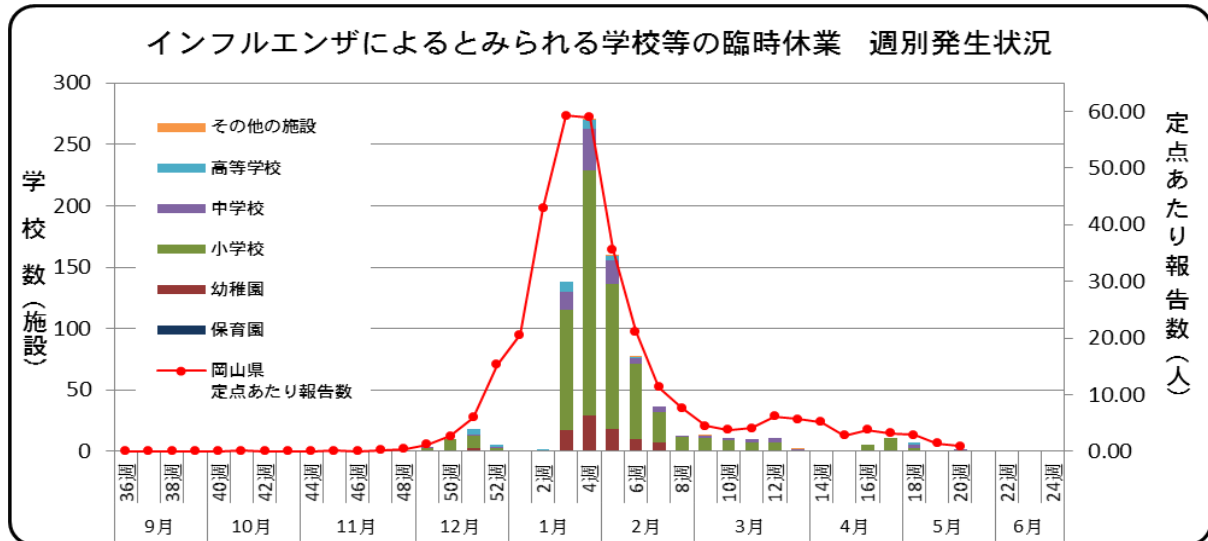
[インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が2施設でありました。

【第20週 臨時休業施設数】 ▽岡山市 1 ▽高梁市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	20	12749	12	9926	2	813	0	18	1	209	1	586	H26.10.21
岡山市	7	5167	6	3861	1	305	0	2	0	43	1	260	H26.12.1
倉敷市	0	3035	0	2478	0	167	0	3	0	26	0	138	H26.10.21
備前地域	0	798	0	673	0	67	—	—	0	25	0	42	H26.12.9
備中地域	0	1653	0	1321	0	134	0	5	0	55	0	74	H26.12.8
備北地域	13	364	6	202	1	15	0	1	1	8	0	6	H27.1.16
真庭地域	0	308	0	242	0	26	0	3	0	14	0	9	H26.12.16
美作地域	0	1424	0	1149	0	99	0	4	0	38	0	57	H27.1.13

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第20週: 2施設

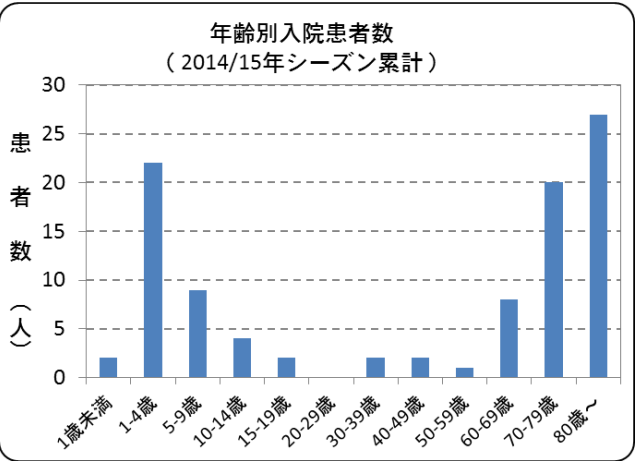
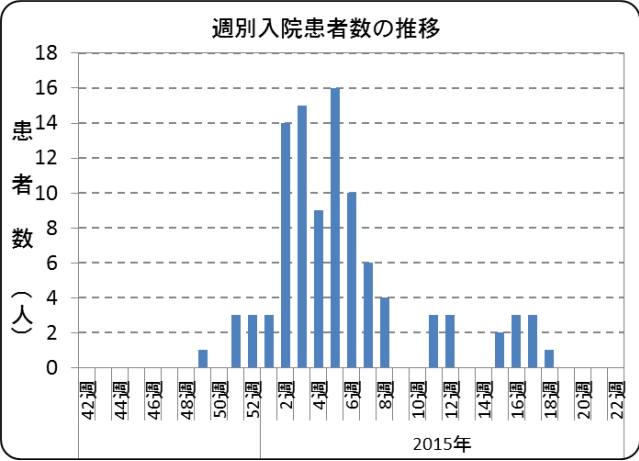
累計: 813施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	86	1	597	1	98	0	27	0	5

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【2014 年 9 月 1 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数	2	22	9	4	2		2	2	1	8	20	27	99
ICU 入室											3		3
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)		5		1						2	4	3	15
頭部 MRI 検査 (予定含)		1		1							3		5
脳波検査 (予定含)		1									1		2
いずれにも該当せず	2	17	9	2	2		2	2	1	6	14	24	81

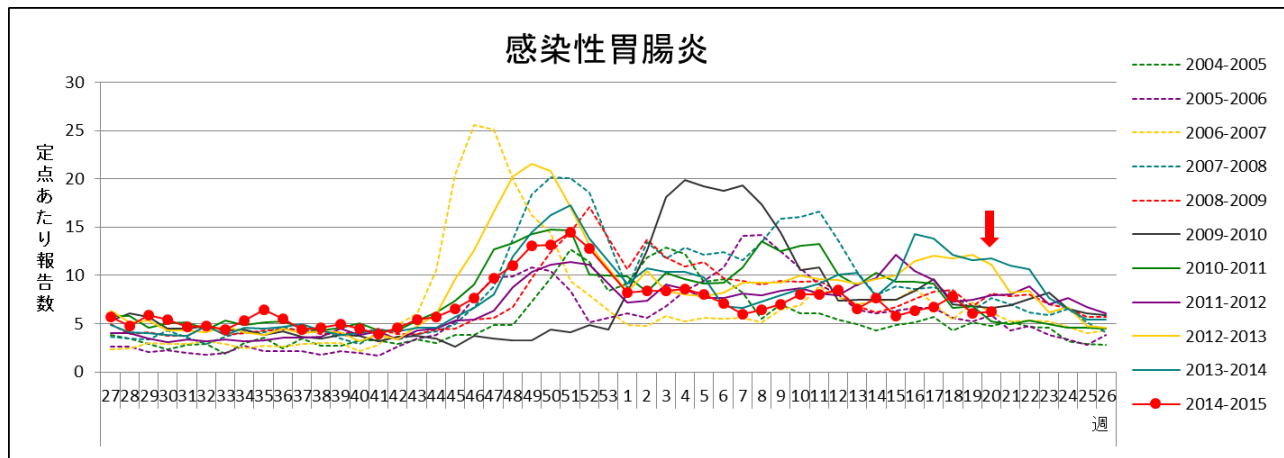
* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2015 年 第 20 週 (5 月 11 日 ~ 5 月 17 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 337 名（定点あたり 6.04 → 6.24 人）の報告がありました（54 定点医療機関報告）。

【第 21 週 速報】

○鏡野町の小学校 1 校で、感染性胃腸炎による臨時休業がありました（5 月 18 日）。

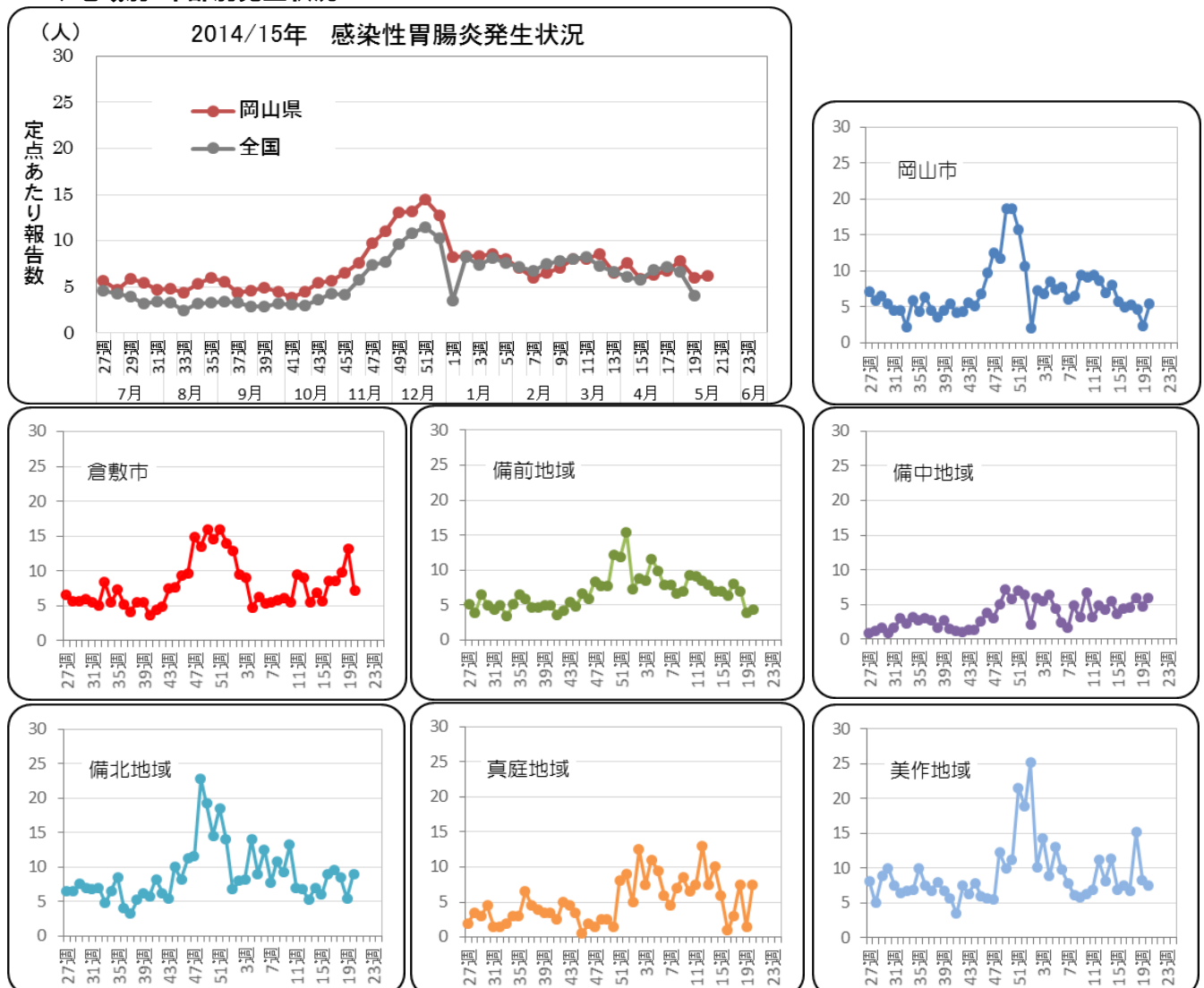


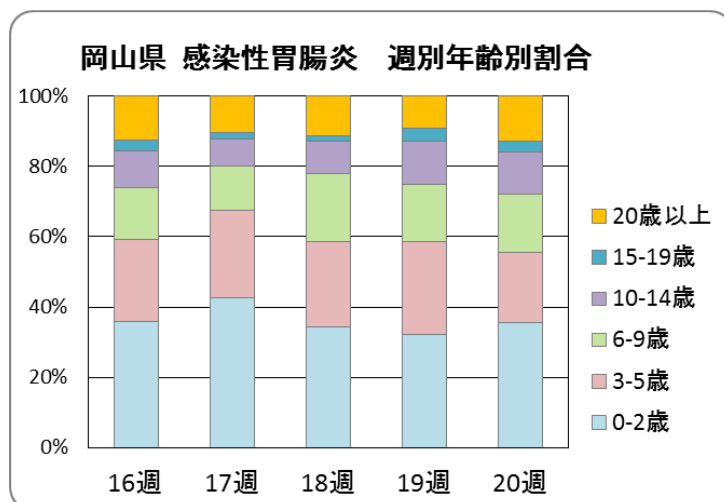
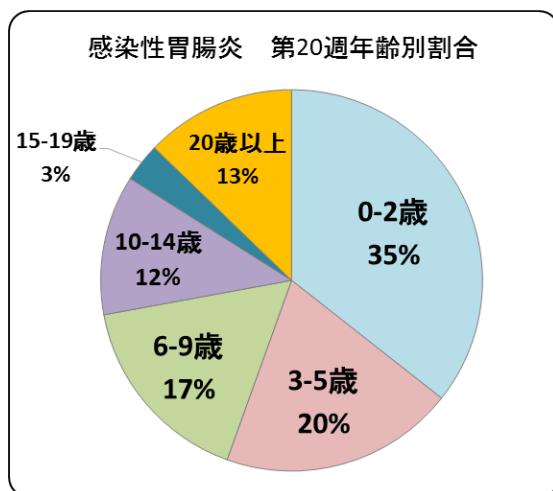
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で 337 名（定点あたり 6.04 → 6.24 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。排便後や調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・嘔吐物は適切に処理をするなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、真庭地域で定点あたり報告数が大きく増加しました。備北地域（9.00 人）、真庭及び美作地域（7.50 人）、倉敷市（7.18 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別割合では、5 歳以下の乳幼児が全体の 55% を占めています。

例年 3～5 月には、0－2 歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[IASR Vol.35 p.63-64: 2014 年 3 月号 ロタウイルス 2010～2013 年（国立感染症研究所）](#)

◎ウイルスによる感染性胃腸炎に注意しましょう。

- * 石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- * 患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。
- * 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、塩素系漂白剤などを使った消毒も、併せて行いましょう。
- * 通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともあります。体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関する Q&A（厚生労働省）](#)

[ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数（定点把握）

2015年 20週

（ 2015/05/11～2015/05/17 ）

2015年5月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	81	0.96	18	0.82	15	0.94	8	0.53	12	1.00	21	3.50	2	0.67	5	0.50
RSウイルス感染症	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	14	0.26	8	0.57	1	0.09	—	—	3	0.43	1	0.25	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	1.22	8	0.57	29	2.64	1	0.10	8	1.14	14	3.50	1	0.50	5	0.83
感染性胃腸炎	337	6.24	76	5.43	79	7.18	44	4.40	42	6.00	36	9.00	15	7.50	45	7.50
水痘	17	0.31	6	0.43	4	0.36	4	0.40	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
手足口病	51	0.94	7	0.50	22	2.00	3	0.30	9	1.29	3	0.75	1	0.50	6	1.00
伝染性紅斑	6	0.11	5	0.36	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	26	0.48	9	0.64	3	0.27	2	0.20	3	0.43	6	1.50	2	1.00	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	8	0.15	—	—	3	0.27	—	—	5	0.71	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	18	0.33	2	0.14	1	0.09	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	12	2.00
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	8	0.67	8	1.60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（－： 0 or 0.00）
 （空白： 定点なし）

保健所別報告患者数(発生レベル設定疾患) 2015年 20週

(2015/05/11～2015/05/17)

2015年5月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	81	0.96	18	0.82	15	0.94	8	0.53	12	1.00	21	3.50	2	0.67	5	0.50
咽頭結膜熱	14	0.26	8	0.57	1	0.09	－	－	3	0.43	1	0.25	－	－	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	1.22	8	0.57	29	2.64	1	0.10	8	1.14	14	3.50	1	0.50	5	0.83
感染性胃腸炎	337	6.24	76	5.43	79	7.18	44	4.40	42	6.00	36	9.00	15	7.50	45	7.50
水痘	17	0.31	6	0.43	4	0.36	4	0.40	1	0.14	－	－	－	－	2	0.33
手足口病	51	0.94	7	0.50	22	2.00	3	0.30	9	1.29	3	0.75	1	0.50	6	1.00
伝染性紅斑	6	0.11	5	0.36	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	1	0.02	－	－	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	8	0.15	－	－	3	0.27	－	－	5	0.71	－	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	18	0.33	2	0.14	1	0.09	1	0.10	2	0.29	－	－	－	－	12	2.00
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎	8	0.67	8	1.60	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第20週 2015/05/11～2015/05/17)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	81	-	2	4	-	4	3	1	-	1	4	4	21	8	5	4	10	4	2	-	4

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	-	-	6	2	2	3	-	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	-	-	3	-	6	9	5	7	11	5	4	8	3	5
感染性胃腸炎	337	3	29	55	33	26	27	14	16	11	18	11	40	11	43
水痘	17	1	2	3	-	2	1	2	-	5	1	-	-	-	-
手足口病	51	1	4	10	11	6	8	4	2	2	1	-	2	-	-
伝染性紅斑	6	-	1	1	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-
突発性発疹	26	-	8	16	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	-	1	3	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	18	-	-	2	2	1	6	3	-	1	1	-	-	1	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	1	3	-	1	-

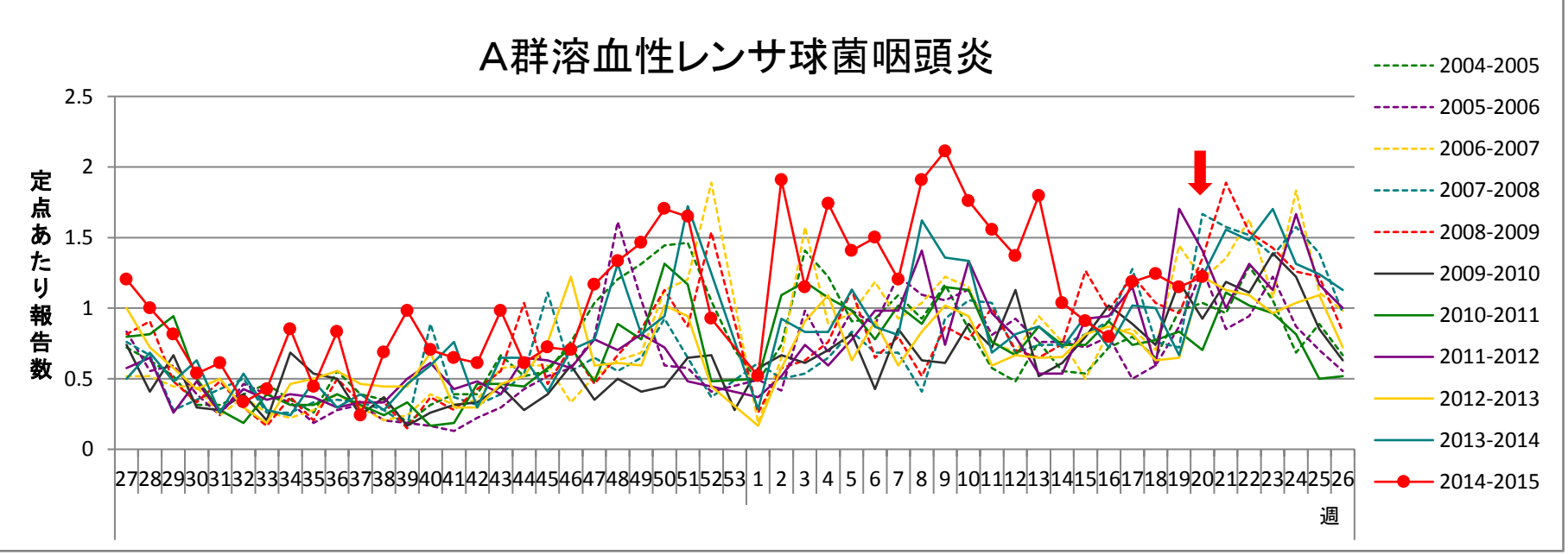
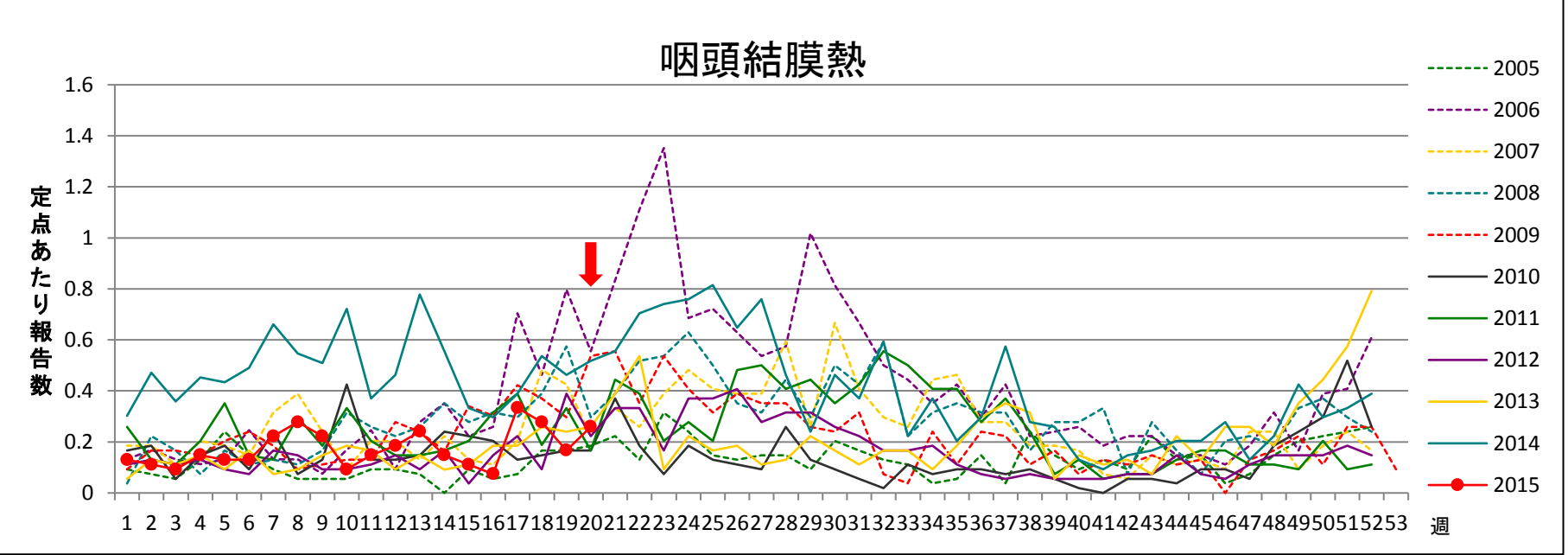
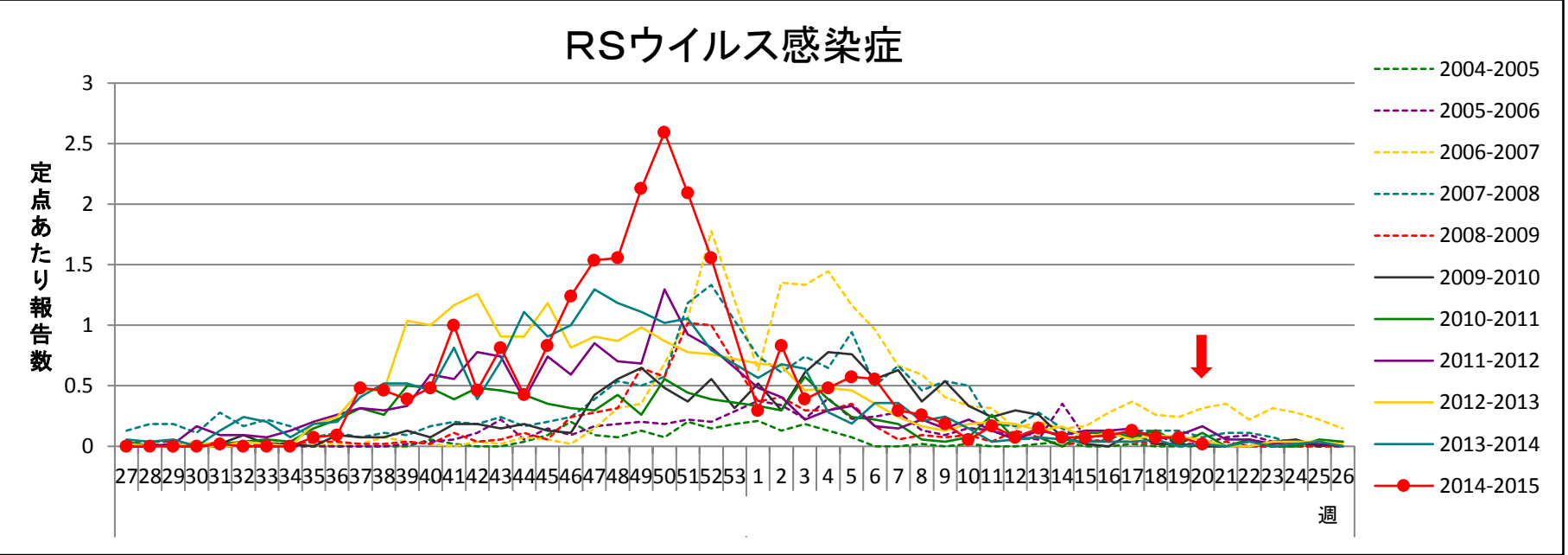
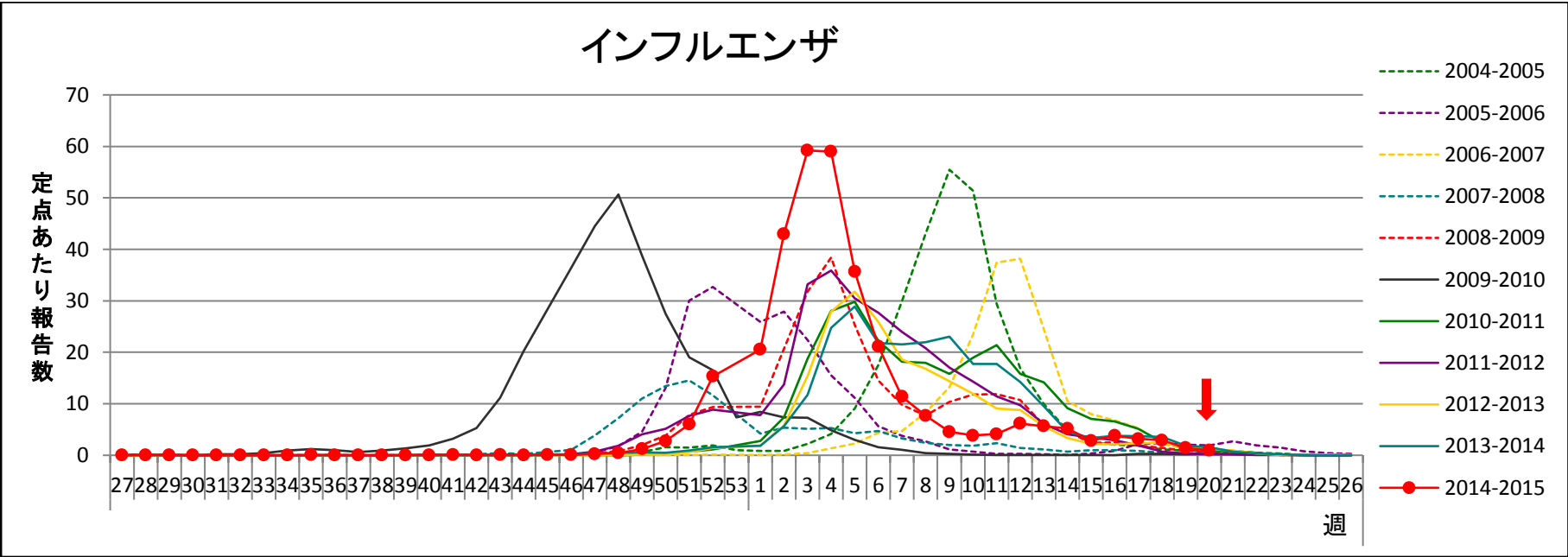
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

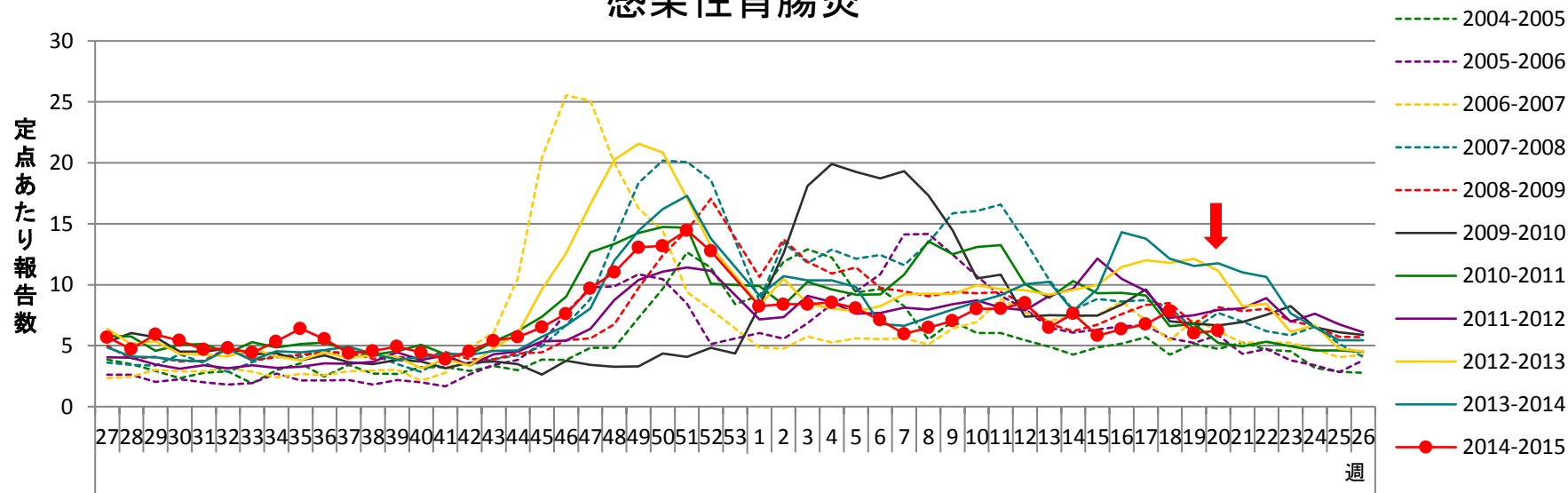
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 20 週

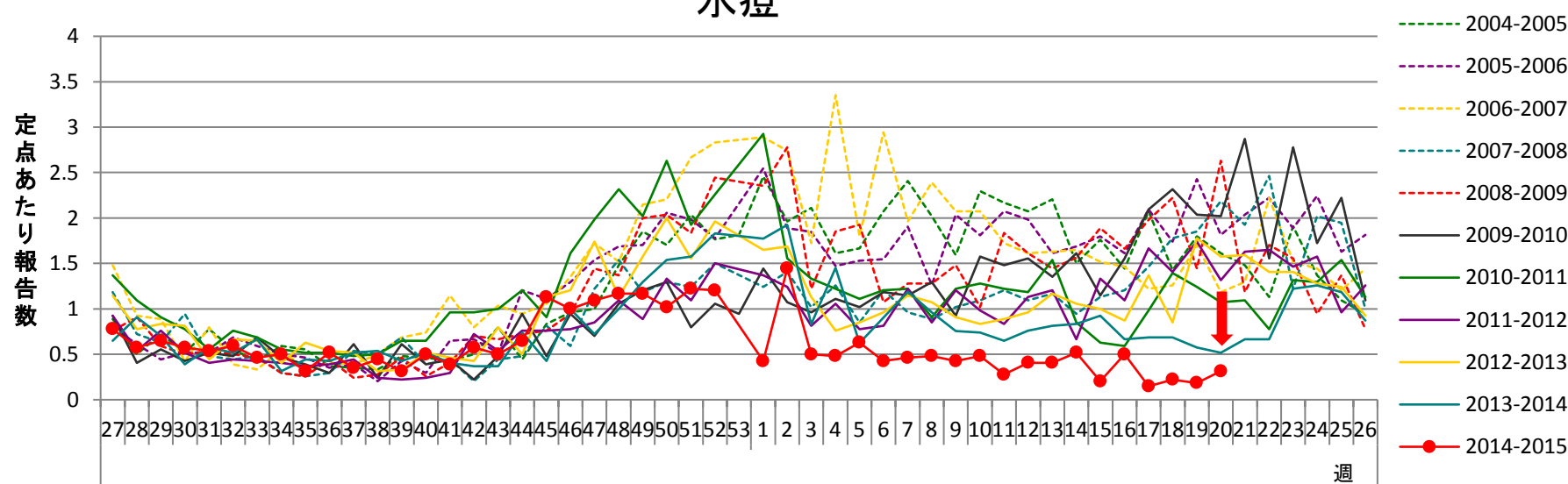
分類	疾病名	2015			2014	2015	2014	2015	2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	今週	累計
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 中東呼吸器症候群	2	108	384	ジフテリア 鳥インフルエンザ(H5N1)
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症
	腸チフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 重症熱性血小板減少症候群 ダニ媒介脳炎 つつが虫病 鳥インフルエンザ 日本紅斑熱 鼻疽 ヘンドラウイルス感染症 マラリア リッサウイルス感染症 レジオネラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症
	エキノコックス症	-	-	-		-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-	
	Q熱	-	-	-		-	-	-	
	サル痘	-	-	-		-	-	2	
	西部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-	
	チクングニア熱	-	-	-		-	-	2	
	東部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-	
	日本脳炎	-	-	-		-	-	4	
	Bウイルス病	-	-	-		-	-	-	
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-		-	-	-	
	ポツリヌス症	-	-	-		-	-	-	
	ライム病	-	-	-		-	-	-	
	類鼻疽	-	-	-		-	8	32	
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	
五類	アメーバ赤痢	1	7	12	ウイルス性肝炎*3 クリプトスポリジウム症 後天性免疫不全症候群 侵襲性髄膜炎菌感染症 先天性風しん症候群 破傷風 風しん	-	3	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 侵襲性肺炎球菌感染症 梅毒 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染 麻しん
	急性脳炎*4	-	6	9		1	1	-	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	3		-	8	21	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2		-	-	-	
	水痘(入院例に限る。)	-	-	6		-	-	-	
	播種性クリプトコックス症	-	1	1		-	-	1	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2		-	-	2	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	



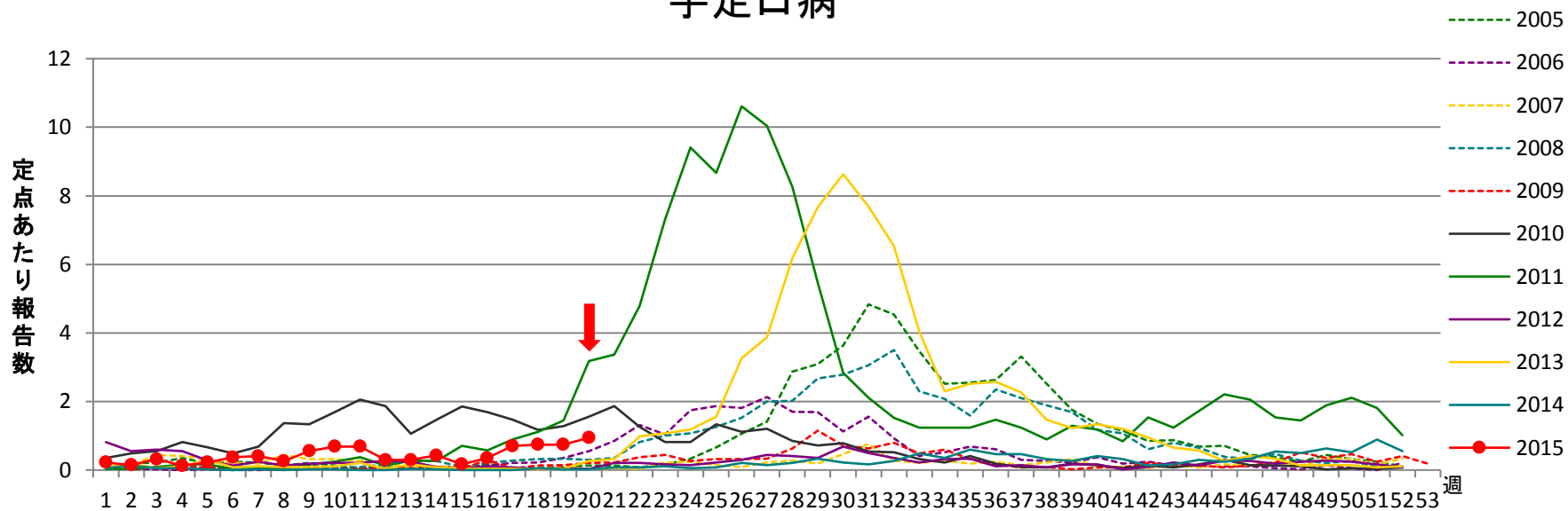
感染性胃腸炎



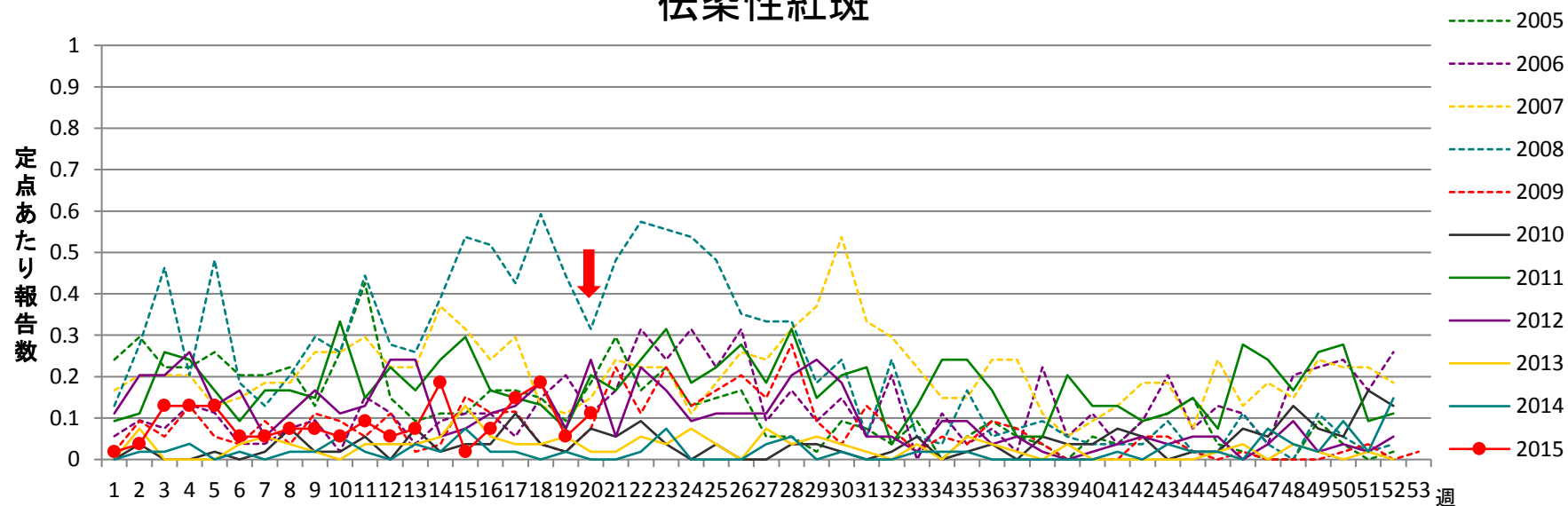
水痘



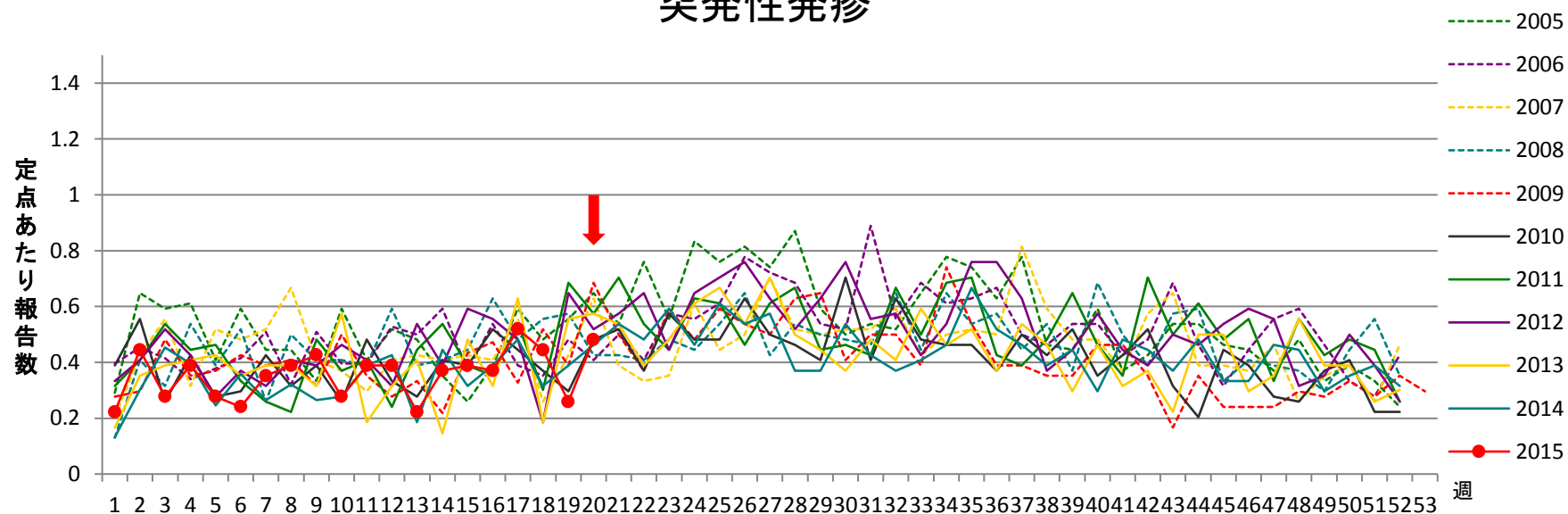
手足口病



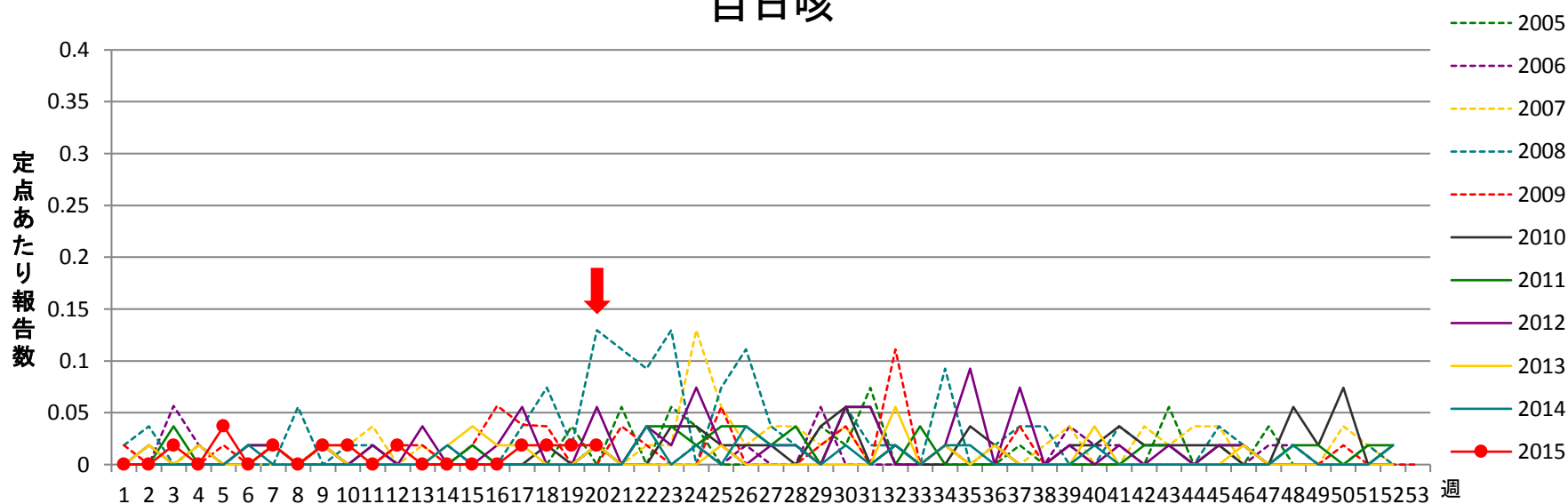
伝染性紅斑



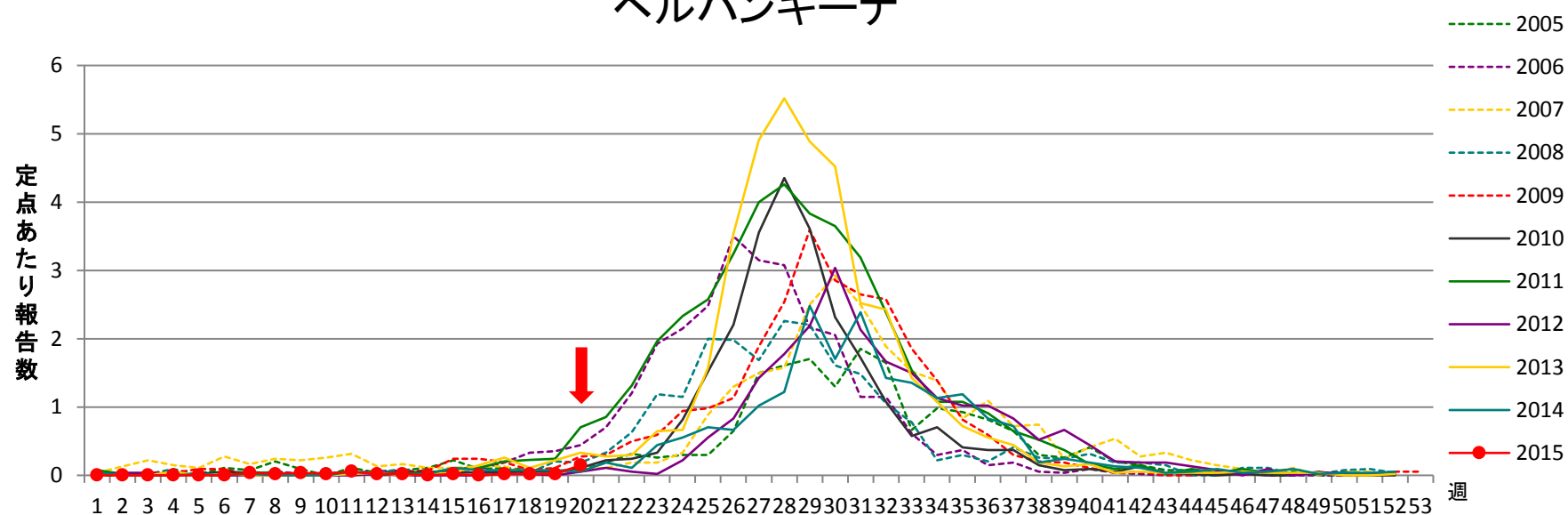
突発性発疹



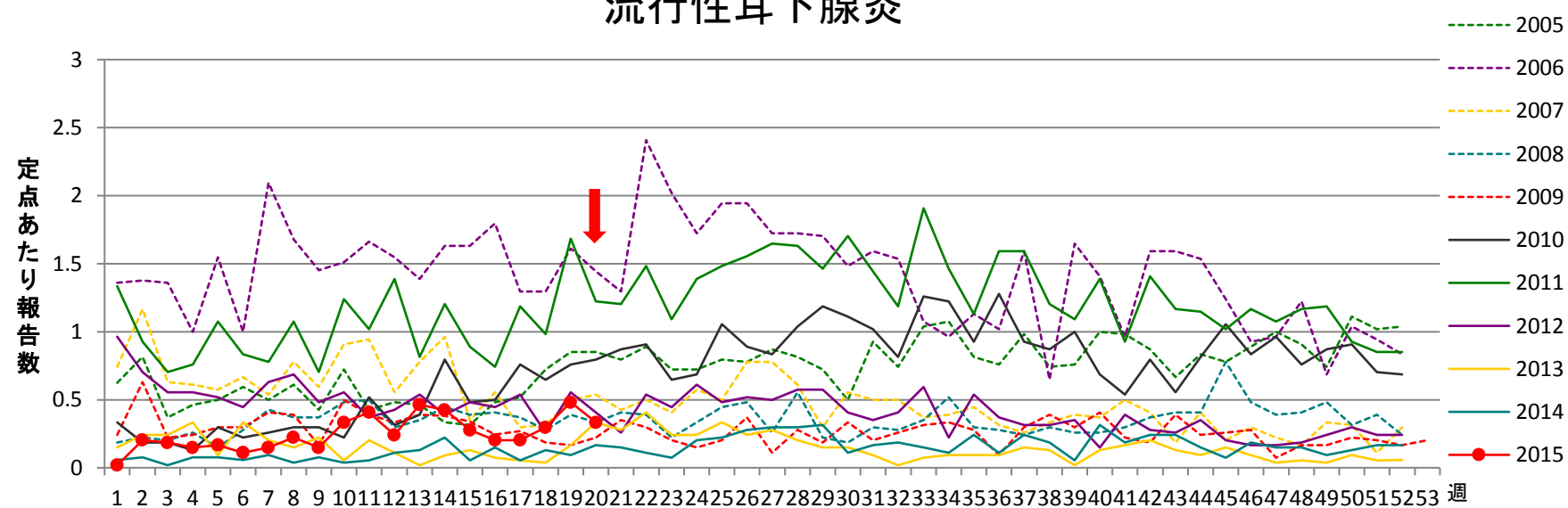
百日咳



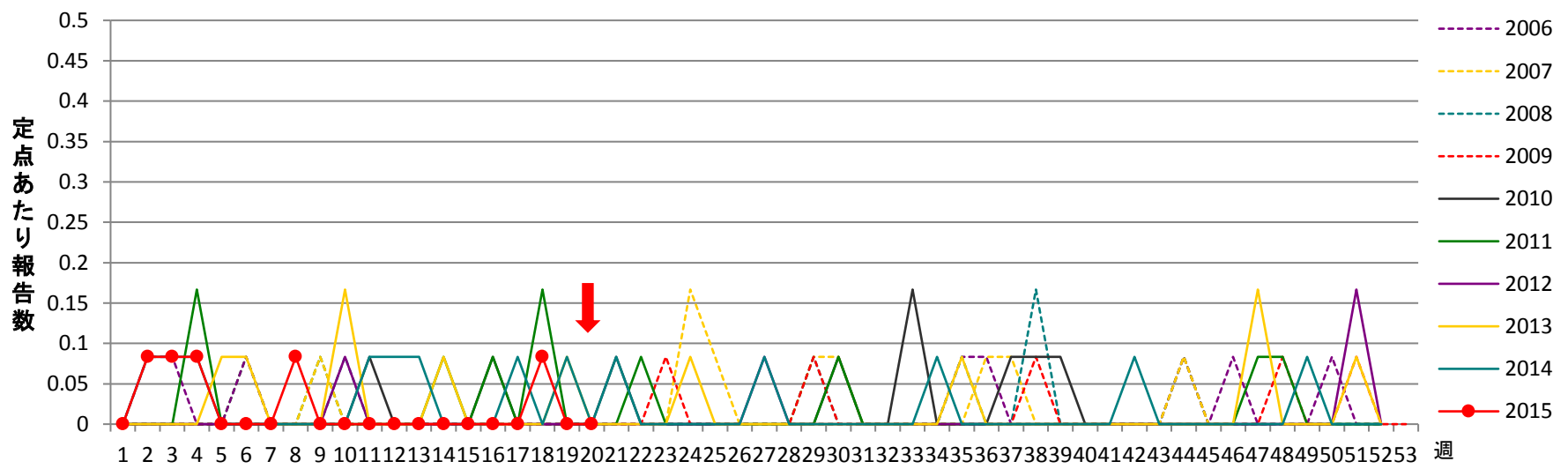
ヘルパンギーナ



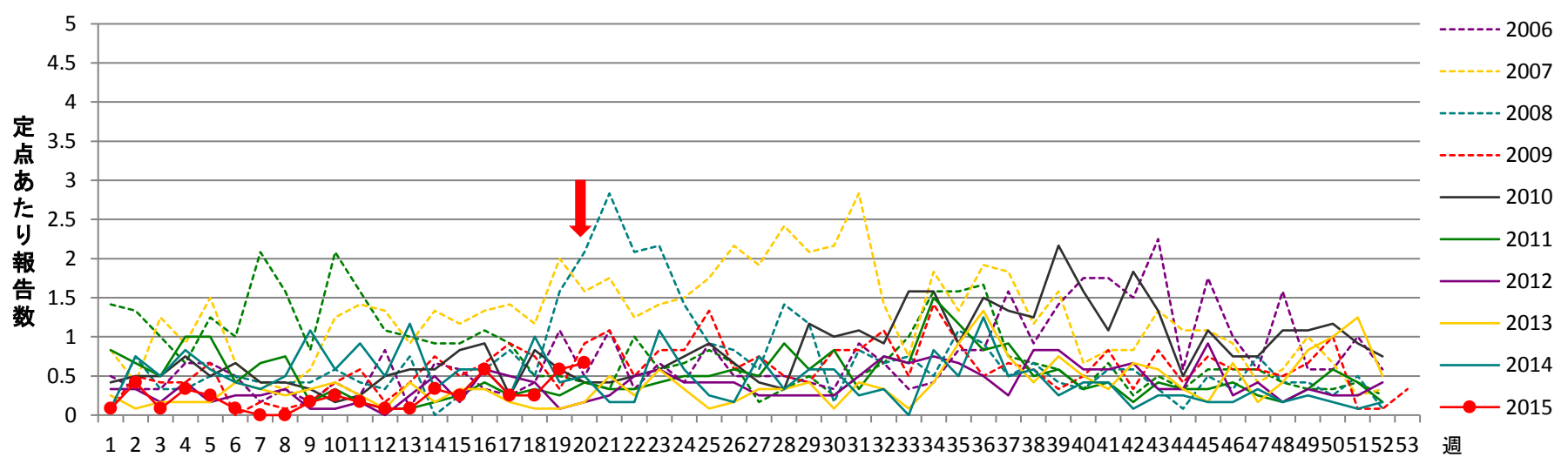
流行性耳下腺炎



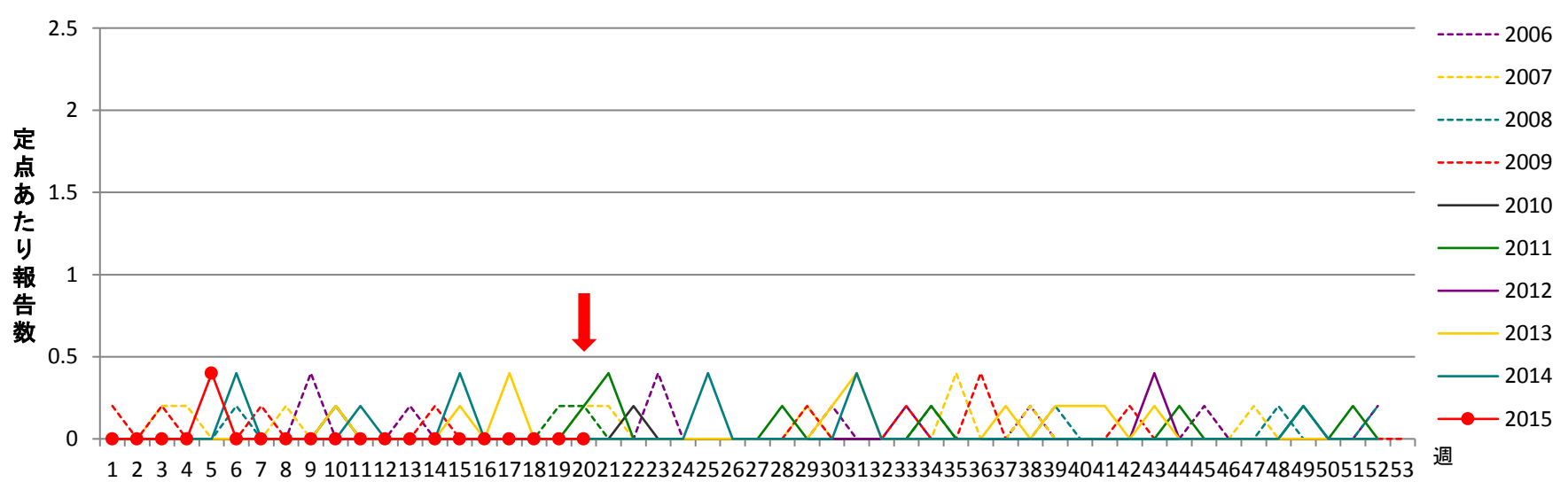
急性出血性結膜炎



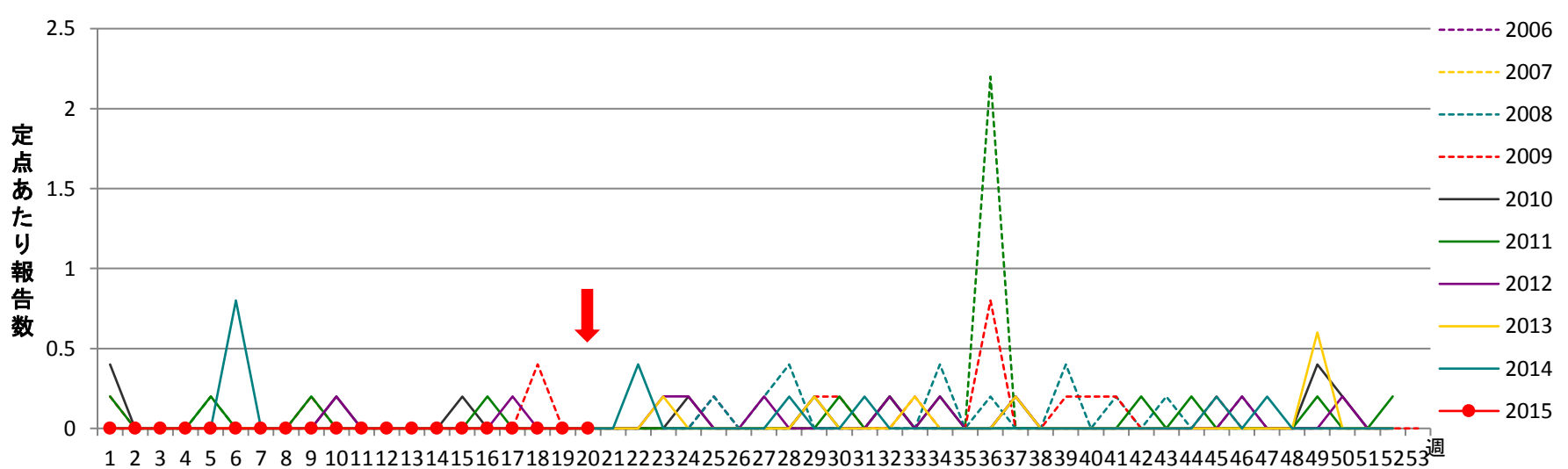
流行性角結膜炎



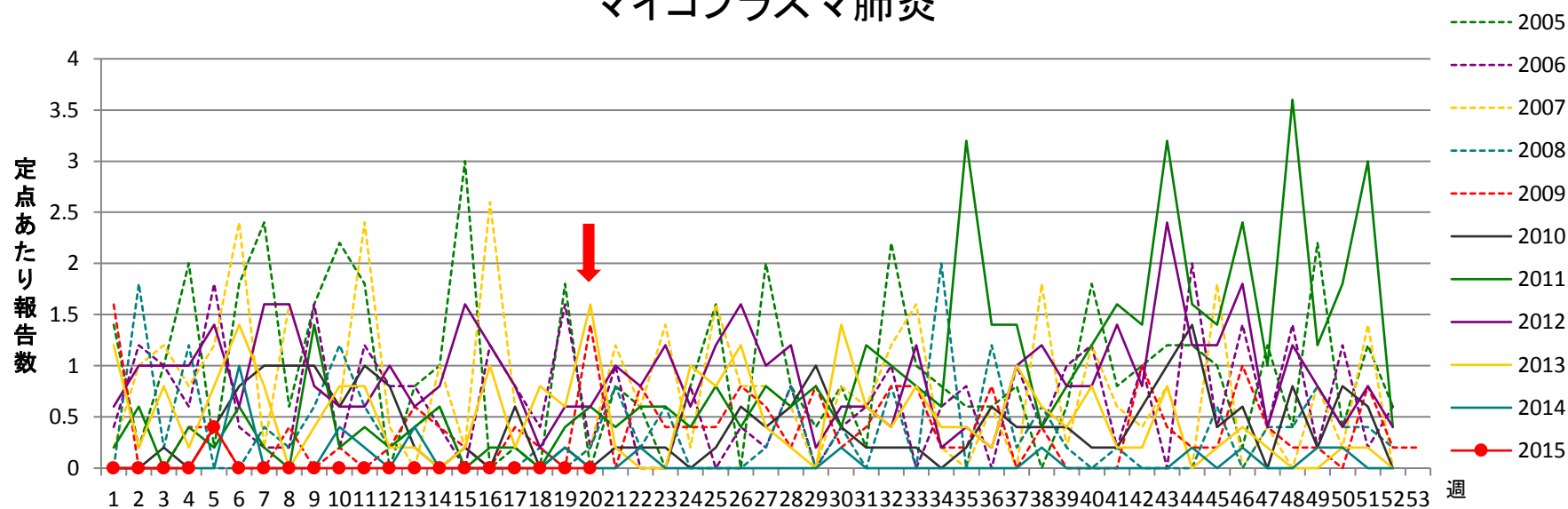
細菌性髓膜炎



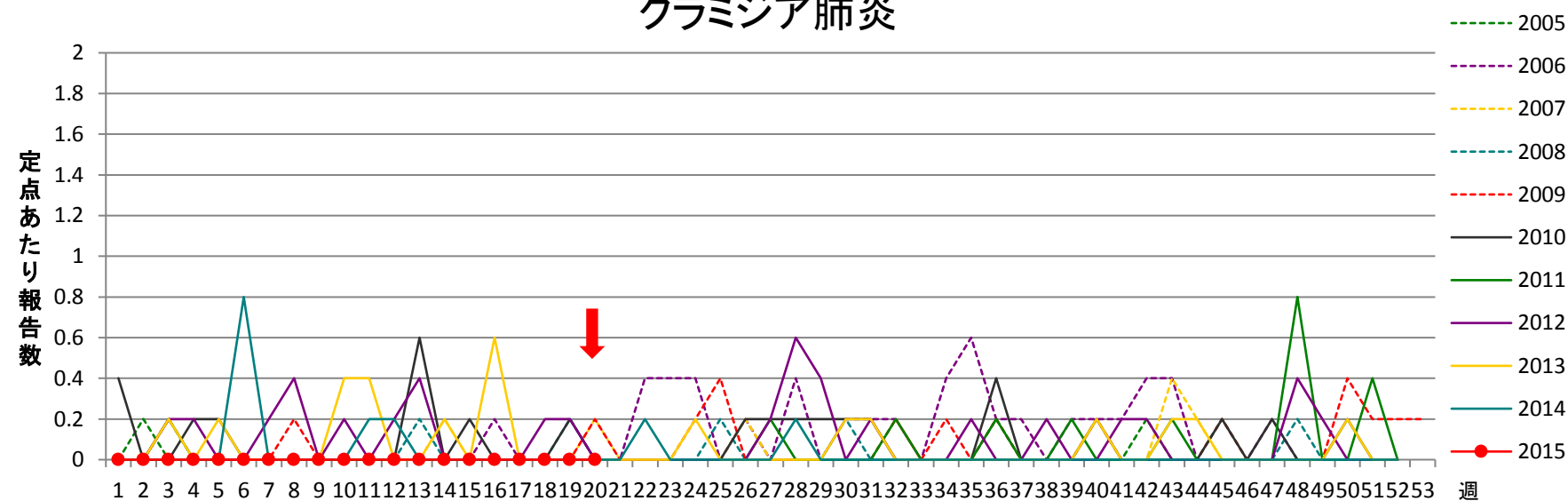
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

